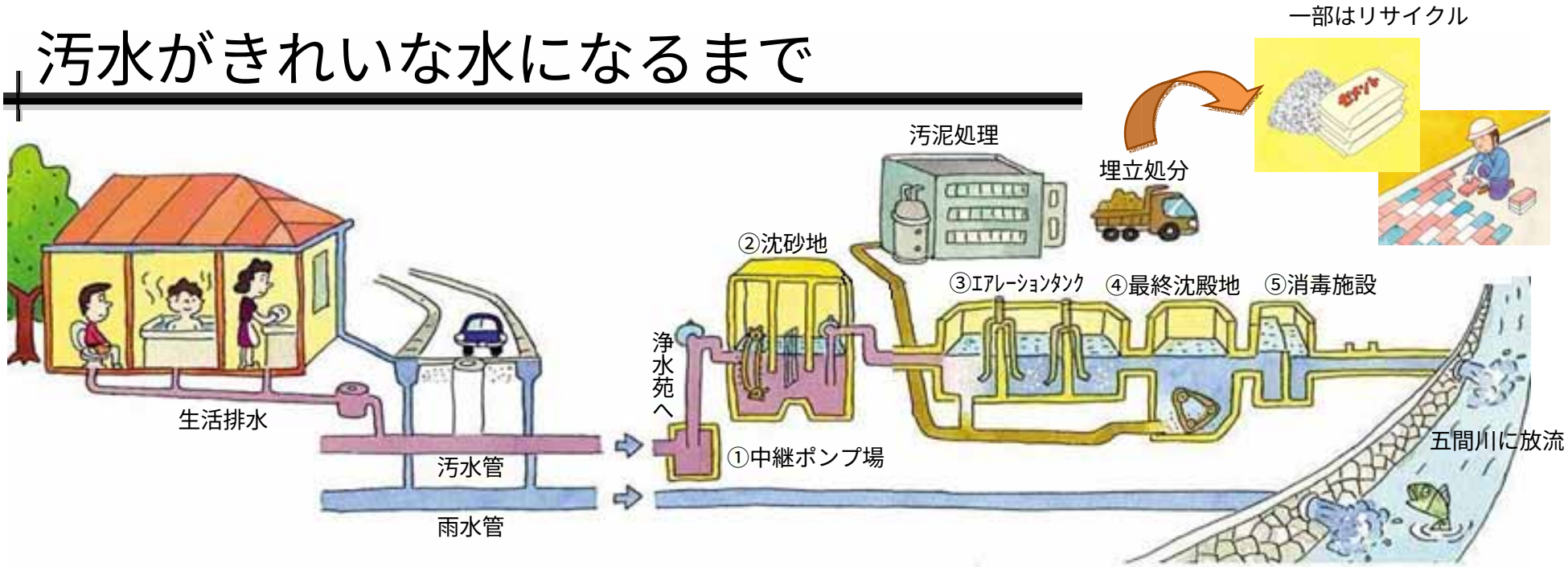
汚水がきれいな水になるまで



①中継ポンプ場

下水道管を流れる汚水を浄水苑（終末処理場）まで送るための施設です。本市には、潟山中継ポンプ場が、向吉と十町にマンホールポンプがあります。

浄水苑へ

②沈砂地

下水道管を流れてきた汚水から、ごみや砂などを取り除きます。

③エアレーションタンク

汚水に微生物を含んだ活性汚泥を加えます。そこに空気を送り込み、微生物の働きを促進します。活性汚泥が汚れを食べて水をきれいにします。また、活性汚泥は汚れを食べると膨らんで、下に沈みやすくなります。

④最終沈殿地

活性汚泥と汚れがとれた水に分離させ、きれいなうわ水を消毒施設に送ります。活性汚泥はエアレーションタンクに戻し、余分な汚泥は処理します。

⑤消毒施設

流れてきた水には、大腸菌などの細菌がわずかに含まれているため、塩素で消毒してから五間川に放流します。

汚泥処理

ガスを取り除き、無害になった汚泥から水分を絞った後、管理型処理場で埋め立て処分します。また、汚泥の一部は、焼却後にセメントとして再利用されます。

五間川に放流

きれいな水に生まれ変わって放流されます。